



平成 23 年 2 月 18 日 金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
(奈良県保健環境研究センター内)
N a r a I D S C



● 今週の概要

■ 今週の感染症情報

■ 奈良県インフルエンザウイルス検出状況 **NEW**

■ 奈良県ノロウイルス検出状況 **NEW**



(調査週) 平成 23 年 第 6 週 2 月 7 日 (月) ~ 2 月 13 日 (日)

奈良県および二次医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	13.05	→	→	→	→~↑
2	感染性胃腸炎	5.09	→	→	→~↓	→
3	水痘	1.20	→	→	↓	→
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.97	→	→	→~↑	→
5	咽頭結膜熱	0.29	→	↓	→~↑	→
5	突発性発疹	0.29	→	→~↑	→	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 528 例で、前週報告の 773 例から減少。上位 5 疾患は、①インフルエンザ②感染性胃腸炎③水痘④A 群溶連菌咽頭炎⑤突発性発疹の順。水痘の報告数（25 例）は、やや増加。突発性発疹の報告数（7 例）も、やや増加。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（8 例）は、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数（387 例）は、急減。感染性胃腸炎の報告数（92 例）は、やや減少。なお、インフルエンザの定点報告の内訳は、奈良市 HC 管内；155 例、郡山 HC 管内；232 例だった。奈良市 HC 管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎の報告が 1 例（5~9 歳児）あった。また、奈良市 HC 管内眼科定点からは、流行性角結膜炎が 1 例報告された。（村井 記）

県北部外来状況：インフルエンザは 1 月末をピークに減少に転じました。当院では迅速検査 A 型が大部分ですが、B 型が流行しているところもあるようです。A 型の精密検査は全て AH1pdm（新型）です。抗インフルエンザ剤の効果はよくすぐに軽快しています。年齢は乳児から老人まで幅広く感染者がみられるのが今シーズンの特徴です。感染性胃腸炎でも同様に乳幼児から成人までみられます。細菌性、ノロウイルスが混在していますが、ロタウイルスもでてきています。2 月第 2 週から水痘が幼稚園と保育園で流行してきました。夏に多い手足口病やアデノウイルス感染症もときにでてきます。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、516例から363例と減少した。上位5疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎、A群溶連菌咽頭炎、水痘、咽頭結膜熱の順であった。インフルエンザは、251例と2週連続減少を示し、緩やかにピークを過ぎている。中和地区では、定点報告数は11.41である（桜井保健所管内は8.00、葛城保健所管内は14.82）。感染性胃腸炎は66例と減少傾向である。眼科定点からは、流行性角結膜炎2例の報告が葛城保健所よりあった。基幹定点からの報告はなかった。（高木 記）

県中部外来状況：外来数はインフルエンザの減少に伴い減少傾向、インフルエンザは2月に入って減少、今週はさらに減少した。今冬、当院ではすべてA型。印象として、軽症傾向、ワクチン接種済みの罹患が多い傾向。厚生労働省情報によれば、次年度からは季節性インフルエンザとしての扱いとなる可能性。他に感染性胃腸炎の流行あり。乳幼児では短期間の水様下痢を伴い、親などへの家族内感染もある。ロタ陰性。嘔吐少なくノロウイルスかどうか不明。乾性咳嗽の多い例があるが、経過からマイコプラズマ様ではない。その他水痘が僅か。軽症のヘルパンギーナ様の例があった。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第5週→第6週）は123例→121例と推移。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（88例→80例）、②感染性胃腸炎（13例→20例）、③A群溶連菌咽頭炎（11例→13例）、④水痘（6例→6例）、⑤咽頭結膜熱（0例→2例）。（柳生 記）

県南部外来状況：外来数は減少傾向。インフルエンザは第4～5週をピークに急減した。最近は大半のものはA型であるが、地域的にはB型もまだ多い。インフルエンザと並行してA群溶連菌咽頭炎の流行が続いている。咽頭所見の特徴に乏しくインフルエンザと鑑別が困難な例が多い。成人例も見られる。感染性胃腸炎は減少の後、また少し増加した。その後ロタは見られず。第5週で見られたRSウイルス感染症は、その後はなかった。咽頭結膜熱、伝染性紅斑もあった。（山本 記）

奈良県インフルエンザ検出状況

平成22年度奈良県感染症発生動向調査事業
平成22年度新型インフルエンザ対策事業

平成22年度新型インフルエンザ対策事業
表. A型インフルエンザウイルス検出状況

(採取日別、上段: 新型、下段: 季節性)

採取週	第3週 まで	第4週 1/24~1/30	第5週 1/31~2/6	第6週 2/7~2/13	総計	
市町村						
北和	奈良市	96 14	2	3	101 14	
	大和郡山市	13 4			13 4	
	天理市	12 2			12 2	
	生駒市	14 7			14 7	
	山添村	1			1	
	平群町	1			1	
	三郷町	4			4	
	斑鳩町	1 2			1 2	
	安堵町	1			1	
	中和	橿原市	20 8			21 8
		桜井市	8 3		1	9 3
宇陀市		1			1	
川西町		1			1	
三宅町		1			1	
高取町		1			1	
大和高田市		6 39			6 39	
御所市		6 6	4		10 6	
香芝市		8 6			8 6	
葛城市		4			4	
上牧町		3 1			3 1	
王寺町		1			1	
広陵町		5 1	1		6 1	
河合町		1 7			1 7	
南和		五條市	6 1	2 1		8 2
	十津川村	4			4	
	大淀町	1			1	
	下市町	2 2			2 2	
	天川村	2			2	
他	6 5			6 5		
合計	227 111	9 1	3	2	241 112	

(平成23年2月10日現在)

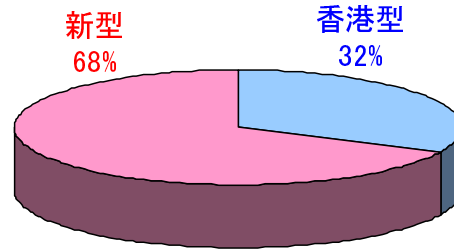


図. 平成22年度インフルエンザウイルスの亜型比率

病原体定点の検体からインフルエンザウイルスが引き続き検出されています。ここ数日寒い日が継続しています、体調管理には十分注意しましょう。

☆ 薬剤耐性検索 (検出数/検索数)

新型ウイルス: オセルタミビル耐性 (1/182)

香港型ウイルス: アマンタジン耐性 (33/33)

(保健環境研究センターウイルスチーム 記)

奈良県ノロウイルス検出状況

平成22年度 感染症発生動向調査事業
平成22年度 食品の検査による安全確認事業

☆ 集団感染症（検出事例数）

- G I 4月：小学校（1）
11月：小学校（1），幼稚園（1）
2月：小学校（2）
- G II 5月：小学校（1）
6月：特別養護老人施設（1）
11月：保育園（5），幼稚園（2），他（1）
12月：小学校（1），幼稚園（1），
保育園（1），他（5）
1月：特別養護老人施設（1）
2月：小学校（1），老人保健施設（1）

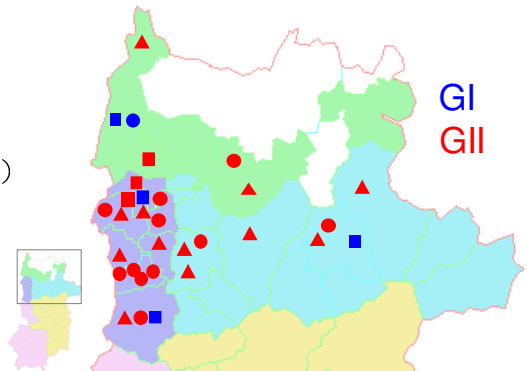


図. ノロウイルス集団発生状況

（食中毒事例を含む）
○：保育所・幼稚園、□：小学校、△：老人保健施設、他

（平成23年2月11日現在）

☆ 有症苦情を含む食中毒事例（検出事例数）

- G II 5月：京都府関連（2）
7月：大阪市関連（2）
11月：他（1）
12月：老人福祉施設（1），他（1）
1月：大阪市関連（1），他（1）

☆ 感染症発生動向調査 病原体定点からの検出数

平成22年感染症発生動向調査事業
表. ノロウイルス検出状況（採取日別、上段：GI、下段：GII）（平成23年2月11日現在）

市町村	採取週 まで	第3週	第4週	第5週	第6週	総計
		まで	1/24 ~ 1/30	1/31 ~ 2/6	2/7 ~ 2/13	
北和	奈良市	2				2
	桜井市	1				1
中和	御所市	3			1	3
	香芝市	1				1
	葛城市	4		1		5
南和	五條市	4				4
	大淀町	2				2
	他	1				1
	合計	18		1		19

2011年に入り病原体定点からの検出がありました。今月に入ってから集団感染事例が小学校で3例、老人保健施設で1例発生しており、ノロウイルスの流行には注意が必要です。

（保健環境研究センターウイルスチーム 記）